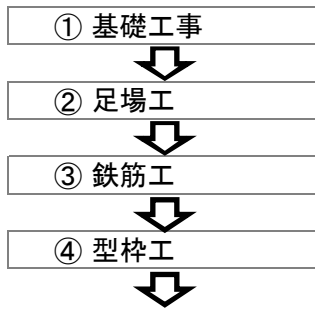


八丈島一般廃棄物管理型最終処分場建設工事

原水調整槽

施工方法
及び
水張り試験方法

1. 施工方法



<施工状況>



①基礎工事
地盤改良を行った後、基礎碎石を敷き均す。



⑤コンクリート工
鉄筋、型枠を組み立て、コンクリートを打設する。



⑦防食塗装(内側) 施工状況
水張り試験後、槽内の清掃を行う。続けて槽内側の表面の平滑さを確認した後、防食塗装を施す。



⑦防食塗装(内側) 完了検査
防食塗装の塗膜強度確認状況。この他、仕上がり、塗膜厚さを確認する。



⑦防水塗装(外側)
槽の外側には、防水塗装を施す。



⑧埋め戻し
外側の防水塗装の後、埋め戻す。埋め戻しは厚さ30cmごとに転圧し、確実に締め固める。

2. 水張り試験要領

1) 試験要領

原水調整槽に水を張り、24時間後、48時間後の水位を測定し判定します。

水張り水位は、HWL（設計上の最高水位）+100 mm とします。

水張り試験には、予め防災調整池に貯めておいた雨水を使用します。

2) 試験方法

①スラブ上に基準点を設けます。



②規定水位 (HWL+100mm) まで水を張ります。



③水面までスケールを下ろして、基準点からの距離 (H) を確認します。



④24時間後に基準点からの距離 (H) を、スケールを下ろして確認します。



(*コンクリートによる水の吸収を確認する為)

⑤48時間後に基準点からの距離 (H) を、スケールを下ろして確認します。

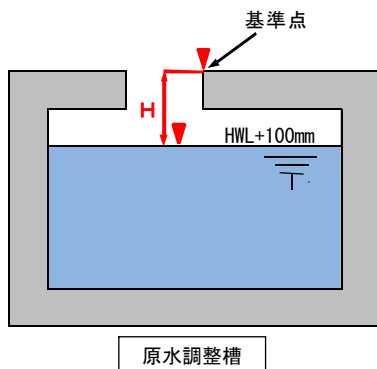
* 24時間後に測定後、水位が低下していた場合でも、外観チェックにより

漏水がない場合、コンクリートによる吸収分とし試験を継続致します。

* 原則として、雨天時をさけ試験を実施致します。試験中に雨が降り、外壁が濡れた場合には、

雨が止み外壁が乾燥するまで水張り試験を続ける事とし、その後、外観チェックを行います。

* 開口部は雨が入らない様、コンパネ及びブルーシートで養生を行います。



中間チェック 24時間後

最終チェック 48時間後

3) 判定(合格)基準

① 水位差-5mm以内とします。 (下水道事業団 水張り試験要領基準により)

(24h~48hの水位差とします。)

② 目視にて各箇所より漏水が無い事とします。

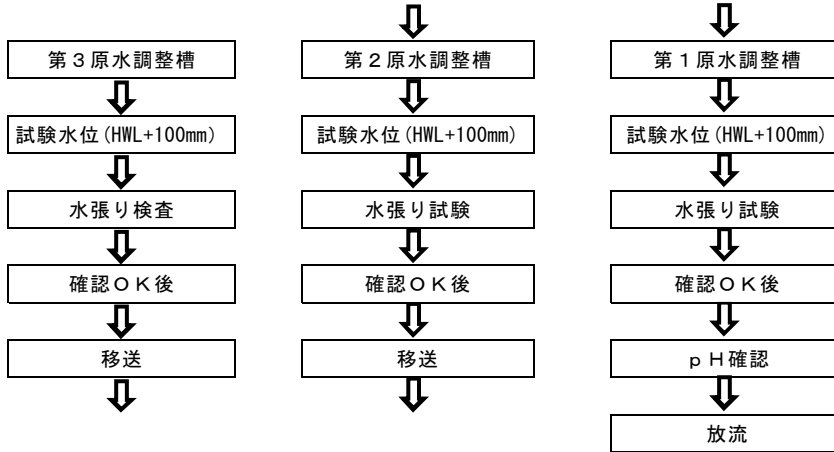
4) 水張り順序

水源は、防災調整池の雨水を利用致します。

最初に第3原水調整槽の水張り試験を行い、検査合格後、第2原水調整槽 → 第1原水調整槽の順番で行います。

水張り試験後、防水防食施工前にハイウォッシャーで水洗い清掃を行います。

<水張り順序>



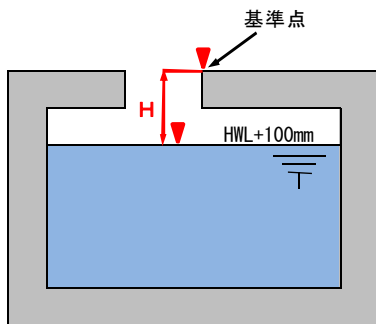
5) 管理

水張り試験開始後、躯体外周を目視して漏水の有無の確認を行います。

別紙チェックシートにて報告書を作成します。

水張容量

No.	水槽名称	W(m)	L(m)	H(m)	V(m3)	基準点から水位まで(H)
1	第一原水調整槽	16.00	18.80	5.20	1564.2	- 1300 mm
2	第二原水調整槽	11.80	18.80	5.20	1153.6	- 1500 mm
3	第三原水調整槽	11.80	18.80	5.20	1153.6	- 1500 mm

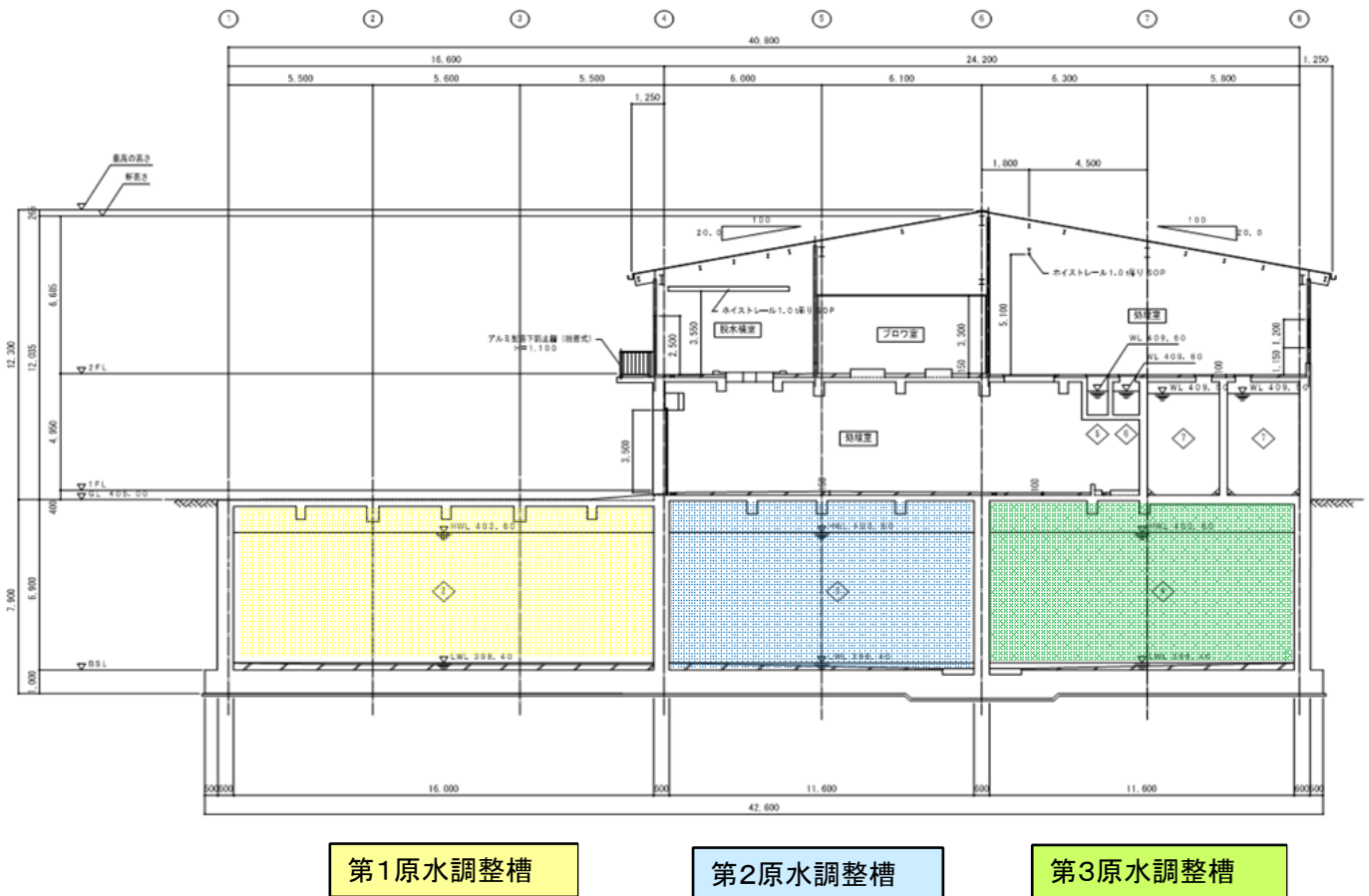


中間チェック 24時間後
最終チェック 48時間後

3. 原水調整槽 水張り試験日程

工種	位置	容量 (m ³)	所要日数										備考欄	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
水張り検査	第3原水調整槽	約	水張り								水抜き			12月中旬開始予定 水張り時間 48時間
		1200				水張り試験								
	第2原水調整槽	約	水張り								水抜き			平成24年1月中旬開始 水張り時間 48時間
		1200				水張り試験								
	第1原水調整槽	約	水張り								水抜き			平成24年2月初旬開始 水張り時間 48時間
		1600				水張り試験								

水張り試験は24時間、48時間2回チェックと致します。



一般廃棄物処理施設建設工事に
係る発注仕様書作成の手引

し 尿 編

社 団 法 人 全 国 都 市 清 掃 会 議

業書を遵守

バー等を設

隣周辺状

滑化及び

等を十分

管理に努

の搬入、
と通の危険

異常

十画し、実

等で突

周、4週強

(2) タッピング

コンクリート打設後、コンクリート天端表面に亀裂を生じないように硬化作用が始まる前に再度天端を押える。

(3) 冬期コンクリート打設について

冬期にコンクリート打設を行う場合には、凍結防止及び養生対策を十分に考慮する。

(4) 骨材は、JISに明記する試験に合格した強度を有したものを使用する。

(5) 型枠については、十分な強度と剛性を有し雑物等の除去に努め、形状、寸法の決定は入念に行うものとする。

6) 防水工事

(1) 水槽防水

水槽の防水は、コンクリート躯体で止水するものとし、防水剤は補助として使用する。

(2) 水張テスト

①水張テストは、最低48時間水を張って漏水箇所のないことを確認する。

②地下の水槽にあっては、漏水箇所が確認されるまで埋戻してはならない。

③水張テストの水は原則として淡水とする。

7) 金物工事

(1) フック等

建物各部の要所には必要に応じて機器搬出入用のホイストレール又は吊り下げ用フックを取り付ける。

(2) 埋込短管

①埋込短管はコンクリート打設時に水平、垂直が動かぬよう固定する。なお、大口径の場合は鉄筋と埋込管を溶接してコンクリートを打設する。

②埋込短管は強度、及び耐食性を考慮した材質とする。

8) 左官工事

(1) モルタル

①機械・配管工事と工程の調整を行い、できるだけ機械工事などの後に仕上げ工事を施工するよう計画する。

②モルタル仕上工程において、機械、配管等を汚損しないよう十分注意して施工する。

③土間及び機械基礎の仕上げモルタルは、機械類設置後施工することを原則とする。

農業集落排水施設施工指針

污水处理施設編

(案)

農業集落排水事業諸基準等
作成全国検討委員会

イ. 施工上の留意事項

(ア) 防水材の塗布は、足場を設置して（脚立を使用する場合もある）側壁部等を施工し、足場を撤去した後に底版面を施工する。なお、足場の組立、撤去により、周辺の仕上がり部等を傷つけないようにする。

(イ) 施工時の作業環境については以下に留意する。

①降雨・降雪時の施工は避ける。

②気温が5℃以下の場合、防水材料の未硬化現象が生じたりするので、適当な保温等を行わない限り、施工しない。

③気温が40℃以上の場合または直射日光のもとでは、急激な乾燥により材料の正常な水和反応を妨げたりするので、施工しない。

④温度が高い場合は、材料が未硬化現象を起こす恐れがあるので、十分な換気設備等を設ける。また、閉塞場所では酸欠の恐れがあり、十分な換気が必要である。

3. 4. 8 水張り試験

水槽部コンクリート工事完了後適切な時期に、各水槽の水張り試験を行い水密性を確認する。

【解説】

1. 水張り試験の実施時期

水張り試験は、水槽部コンクリート工事完了後、污水处理施設各水槽の水密性を確認するために行う。その実施時期については以下の3時期が考えられるが、発注者および請負者が協議の上、工程等も勘案して適切な時期を選定する。

①コンクリートの養生、型枠脱型後所要の強度が確認された後に行う。

②防水工・防食工の施工後に行う。

③機械・電気設備据付後、総合試運転と同時に行う。

2. 試験方法

(1) 各水槽ごとに順次水張り試験を行うのかあるいは水槽全体を一括して行うのかは、主に安価な水が大量に得られるかどうかにかかっている。一般的に、水量等に制限がある場合は水を再利用しながら各水槽ごとに試験を行い、制限がない場合は水槽全体で行う。各水槽ごとに行う場合非常に時間と手間が掛かること、また水槽全体として外部に対し水密であるかどうかの問題であることから、水槽全体に水を張り一度に試験を行うことが多い。

(2) 試験に使用する水は懸濁物を含まない清水が適しており、現地の状況に応じ渓流水、農業用水、井戸水、水道水等を水源として利用する。

(3) 試験の手順は以下のとおりである。

ア. 水槽に清水を注水し、水槽全体を計画最高水位（HWL）まで満水とする。

イ. 滴水後24時間程度放置して水位を測定、記録し、水位の変化が5mm以内であることを確認する。

ウ. 水位変化が5mmを越える場合は、水を抜き水槽を空にした後、水槽部外周側壁を内側から点検し、漏水箇所を特定して、V字カットとモルタル填充等適切な措置を講じる。

パース図

